



「第2回中央地区縁日だよ！ 全員集合」を開催することができました。昨年度の反省を踏まえ、準備しておりましたが、開催の当日まで決まらなかつたこともありました。そんな中で無事に開催し、終えることができたのは中央地区のみなさんや関わってくださったみなさんのおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今年の縁日では「ぼんぼん・青山様」に参加した子どもたちが昨年よりも30人増えたことでコースを2つに分けて実施し、屋台の数を増やしたり、体験ブースのピンボールを自作したりと盛りだくさんでした。

今年印象に残ったことを振り返ると中学生企画ブースで丸ノ内中学校の生徒たちが「クレープ」を出店して買い出しから販売まで自分たちで企画・運営をしていました。その姿をみた小学生のひとりが「小学生の企画ブースもほしい」との

声で、小学生のみなさんには「中学生になつたらあんなことができると憧れと期待をもつてくれたらいいなと思います。」

企画する上でのテーマは継続できる組織づくりでした。継続するには運営する側も含めて楽しむことや、イベントを応援したいと思ってもらえることが大切だと考えています。第一回では遊びに来ていたひとが今年には運営側になる、また昨年から運営に関わっていた人が「今年はこうしたい」と想いをもつて参加していただけたことに嬉しく思います。すごく大変だけど楽しかったから参加してもらえたのかなと思っております。このテーマがうまくいっているかどうかは来年度答え合わせができると思います。

昨年度、松本大学の社会学実習をきっかけに大手公民館に足を運ぶようになり、地域のみなさんのいろんな活動

や中央地区縁日を企画する上で、こんなにも地域のみなさんに受け入れてもらえるとは思っていませんでした。松本市に来て3年が経っていましたが知らないことも多く、みなさんから教えてもらうことだらけで、学校や家以外の大人のみなさんと関わることも初めてでとても濃い日々を過ごしました。これが地域に育ててもらったということなんだろうと感じております。

失敗することもあります、みなさんから教えてもらいながら、公民館と関わっていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

ぜひ来年度もみなさんと一緒に「第3回中央地区縁日だよ！ 全員集合」を楽しめたら嬉しいです。

松本大学大学院 総合経営研究科1年 川上 夏希



★青山様だよ★



★明治安田生命さんのフルーツソーダ★



★屋台の様子★



★ぼんぼんの様子★



★女鳥羽川河川敷で花火大会★



★楽しい巨大ピンボール★



★まちなかりビング登場★

長元坊 千ヨウゲンボウ

赤と黒のコントラストが強烈な実を生けてあるのを見て何の花の実かお聞きするとあの清楚な山シヤクヤクの実でした。あまりのギャップにびっくり！。この頃見聞きする植物の話が面白いので書いてみます。

女郎花と書いてオミナエシと読みます。秋の七草です。黄色のつぶつぶした花を咲かせます。

男娘花もあるのです。これはオトコエシと読みます。花の色は白です。「おみなえし少し離れておとこえし」と読まれた句もあります。

へちまの実の若い時はイトウリと呼ばれ中から糸状の実を取り出し酢の物などにします。イトウリが訛ってトウリとなり、「いろはにはへとちりぬるを」へとちの間にとがあるのでへちまになったとか何かで読み面白く思いました。

春一番に路傍やあぜ道に咲く大犬のふぐり。小さな青い可憐な花です。この花の実が犬のふぐりに似ているので牧野富太郎博士が命名したそうです。ちなみにふぐりは陰のうの事だそうです。笑えますね。この花の別名は星の瞳とか。少し安心しました。(S・A)

福祉互助会 視察研修



7月26日、中央地区福祉互助会は利用会員とかかわり隊員の交流を深めるため、北信五岳に囲まれた風光明媚な盆地、信濃町柏原を尋ねました。そこは俳人小林一茶が生まれ晩年を過ごした地です。一茶は柏原の大火で類焼した焼け残りの土蔵で65歳の一生を終えました。生涯約2万句もの俳句を残したと言われ、小さな生き物にまで優しいまなざしを向けて詠んだ句は私たちに安らぎを与えてくれます。

やれ打つな はえがてをする あしをする やせ蛙 負けるな一茶 これにあり 我と来て 遊べや親のない雀 1960年、一茶旧宅が国の史跡に指定されたのを記念して「一茶記念館」が開館され、一茶の生涯、一茶のふるさと柏原宿の様子や、一茶顕彰活動などが紹介されています。

途中、「もろこし街道」では焼きとちうもろこしに舌鼓をうち、そば処ではポリウム十分な天そばを堪能しました。ここで旅のコースは滝見物に変更になりました。滝の名は「苗名」の滝。溪流にかかるつり橋



を渡り、そこから急な坂道を400mほど登ったところにある見事な滝とのことでしたが、我が健脚もこの坂道には歯が立たず残念ながら数名の人達と下で待機することになりました。やがて、滝の絶景を目に焼き付けたメンバーが次々と下ってきたところで記念の一枚を撮り好天に恵まれた北信濃を後にしました。(K・T)

私は袋のまま母から生まれたといふ。そしてその袋を両手で打ち破って出てきたのだと、母から何回も聞かされた。きつと強い子に生まれたのだよと言いたかったのだらう。

生まれた所は九州鹿児島県出水市。昔海軍航空隊の飛行場があり、当時特攻隊の基地でもあったが、今は一万羽あまりの鶴の渡来地として知られている。我が出水小学校は、昔の御飯屋(藩政時代藩主が外出の際泊る住居)があった所で御飯屋門が当時のまま残り、小学校の正門となっている。心に残っている一番の場所であり、帰郷の折は最初に立ち寄るのが

が常であった。中学では柔道、高校では野球に熱中した(県大会優勝1回)。生家が町の鉄工所であり小さい頃から機械と油に囲まれて育った。あこがれの東京へは汽車で26時間。夕方、兄の待つ東京駅に着きそのまま兄のアパートにもぐり込む。4年間の学生生活が始まり、この間にできた7人の友達との交流は、結婚してからも夫婦共々80歳まで続いた。就職は長野県上田市。金属加工機械を作る会社で自動化を進めていた。自分でも凄く興味があり入社した。当時は日本中が忙しく、右肩上がりの世の中で良い時代だったと思う。延べ49年の勤めを終え、家庭の状況にも合わせ松本に住むことになった。移るなり自治会の役員等をおおせつかり負担に感じていたが、振り返れば多くの方々と、知り合いいになれて良かったと思っている。当地に住んで15年、毎朝5時45分起床お城の広場へ。四季折々の北アルプスを観ながら皆さんとラジオ体操、おしゃべり、大笑い。お堀の鯉と白鳥と遊びながら帰路に就く。朝ごはん美味い!

中央地区の樹木 22

アベリア

- ◆科…スイカズラ科
- ◆属…ツクバネウツギ属
- ◆花色…白、ピンク
- ◆草丈…1~2メートル
- ◆花言…恋多き人生

耐寒、対暑性に優れ、乾燥にも強く、公園、校庭、街路樹などに利用されています。中央地区では、開智小学校の庭、松栄町の中央分離帯の植栽に見られます。花期が非常に長く、1センチぐらいの花を無数につけて我々の目を楽ませてくれます。(U・M)



アベリアの花

- 令和6年度町会長紹介
- 大島 宏 (上王町)
 - 北原 嗣正 (緑町)
 - 望月 益榮 (小柳町)
 - 長谷川 均 (大名町)
 - 遠藤 彰 (南土井尻町)
 - 栗田 幸一 (土井尻町)
 - 宇留賀 勝 (北土井尻町)
 - 奥田 正男 (二ノ丸町)
 - 山本 文彦 (西堀町)
 - 小出 忠雄 (六丸町)
 - 赤羽 郁夫 (今町二丁目)
 - 青木 康治 (今町二丁目)
 - 野村 長司 (松栄町)
 - 中田 充 (鷹匠町)
 - 高島 素子 (丸の内)
 - 中村 恭平 (大柳町)
- (◎)会長 (○)副会長